

ORIC NEWS

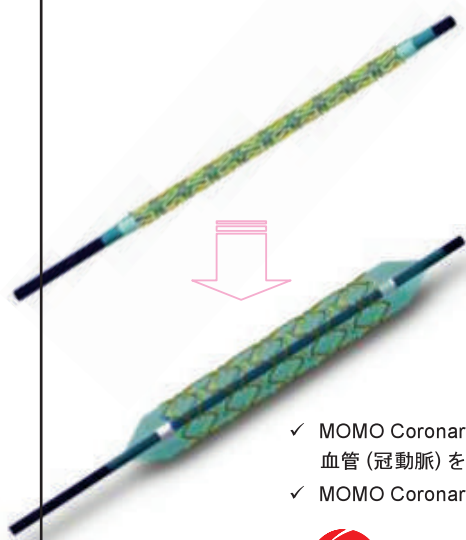
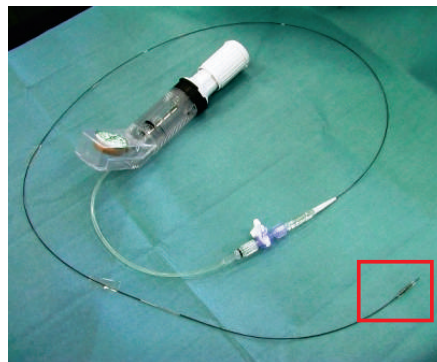
ノ 翔 飛 ひしやう

入居企業紹介

momo CORONARY STENT SYSTEM

《特徴》

- ◆ 弊社独自の全リンク型ステントデザイン
- ◆ バランスのとれた血管支持力と柔軟性
- ◆ 強度に優れたコバルトクロム合金を採用
- ◆ 薄いステント厚さ (70 μm)
- ◆ 小さいプロファイル* (0.96 mm)
*ステント搭載時の直径
- ◆ 生体適合性に優れた、厚さ約 35 nm のダイヤモンドライクカーボン (DLC) コート



MOMO Coronary Stent System は、
2009年 9月に CE マークを取得
2010年 より欧州にて販売開始予定

- ✓ MOMO Coronary Stent System は、急性心筋梗塞などの原因となる心臓の狭くなった血管 (冠動脈) を物理的に広げて、血流を改善・治療するための医療機器です。
- ✓ MOMO Coronary Stent System は、日本では未承認/未販売です。

 **JSTec** 株式会社日本ステントテクノロジー

詳細は7ページをご覧ください。

一本号の主な内容

巻頭言

研修・交流会活動

入居企業の活動・トピックス

入居企業紹介

イベント案内

新入居者紹介

No.27 (2010. 1)

「分権型社会で地方の自立を目指して」

岡山県知事 石井 正弘



新年あけましておめでとうございます。

世界的な景気後退に端を発する、厳しい経済・雇用情勢が続く中、「暮らしやすさ日本一」の岡山を目指し、全力を傾注してまいりたいと決意を新たにしているところです。

去年は、経済・雇用対策を迅速に講じつつ、持続可能な財政構造の確立に向け、歳出の抜本的改革や組織の簡素効率化に取り組みました。また、消防防災ヘリコプターの本格運航や新型インフルエンザ対策など、県民の皆様の安全・安心の確保に全力で取り組みました。さらに、太陽光発電の導入支援や県産農産物のPR、「晴れの国おかやま観光キャラバン隊」の派遣、韓国の慶尚南道との友好交流協定締結などにより、国内外に向けて、「晴れの国おかやま」を情報発信しました。

また、国の政権交代があり、地方分権改革の大きな進展への期待が高まりました。今後も、新政権に対して、より戦略的に改革が推進されるよう積極的に提案を行うとともに、政策の実施に当たっては、地方の意見が反映されるよう強く求めてまいります。

本年は、昨年9月に改訂を行った「新おかやま夢づくりプラン」に沿って、「子どもを健やかに生み育てる環境づくりと将来を担う人づくり」「子どもや女性、高齢者などの安全・安心の確保と良好な環境の保全」「競争力ある成長産業の育成や力強い農政、

観光立県の推進」に全力で取り組むとともに、「多様な主体との協働による活力ある社会づくり」「中長期の発展も見据えた経済・雇用対策の推進」、そして「岡山からの情報発信と拠点性の向上」に努めます。

さらに、行財政構造改革を着実に推進するとともに、「地方の自立と再生」を目指し、真の地方分権改革を実現させるため、国などに対する地方税財源の拡充や地方への大幅な権限移譲などの積極的な提案と、道州制の導入に向けた機運の醸成に努めながら、創造のための改革をさらに推進します。

さて、岡山リサーチパークインキュベーションセンター（ORIC）は、平成15年4月の開設以来、新規事業創出の支援を行う本県の中核施設として、これまでに80者近くを支援し、海外進出する企業など将来性の高い企業も多数育つなど全国的にも高い評価を受ける施設となっております。今後とも、国内はもとより世界に羽ばたく優秀な企業を次々と育成し、ORICが本県産業の新分野を切り拓く推進役として、ますます大きな役割を担うことを期待しているところです。

引き続き、岡山県政に対する力強いご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、県民の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

■ 平成21年10月度ORIC交流会及びセミナー

● 入居企業紹介

「ラクラク！電話一斉連絡サービス 『トークメール』のご紹介」 (有) クラフト

同社が開発した新サービス『トークメール』について田口代表取締役より説明がありました。一斉連絡の方法として携帯電話のメール機能の利用が普及していますが、文字入力が苦手であったり、入力時間を無駄と感じている人もいます。また、メールではその場の雰囲気も伝えられません。そこで開発したのが電話による一斉音声連絡サービス『トークメール』です。このサービスは単に連絡に使うだけでなく、三択のアンケートにも利用できるそうです。サービスの具体的な説明は以前テレビが取上げた放映画像に沿って行われました。現在は『トークメール』の顧客開発に努めており、今年4月にはある盲学校で先生間の連絡に使われたり、自治体や広告代理店と具体的な商談が進むなど徐々に成果が表れているそうです。営業体制を構築し具体的な成果を積み上げ、ベンチャー企業として早く一本立ちしたいとの思いが伝わってくる会社説明でした。



● ゲスト機関紹介

「セルロース系バイオマス超微粉碎技術研究会の紹介」 岡山県産業労働部産業振興課



産業振興を目的に岡山県が支援する機関に「セルロース系バイオマス超微粉碎技術研究会」があります。事務局である岡山県産業労働部産業振興課の三輪主幹から目的、活動内容などについて説明がありました。低炭素社会の実現に向けた石油の代替原料の候補としてセルロース系バイオマス資源の利用があります。再生可能資源と言われるセルロース系バイオマス資源は未利用間伐材、製材廃材などとして真庭地区など岡山県内で多く発生している地域資源です。この資源の活用にはバイオエタノール製造の大幅なコスト低減、高機能バイオ樹脂など新素材の開発と言った課題がありますが、これらの課題を解決する技術開発に向け“セルロース系資源超微粉碎技術の開発による「岡山グリーンバイオ・プロジェクト」”が推進されています。この技術の鍵になるのが超微粉碎技術で、この研究会は実証目標として「セルロース系バイオエタノール原料製造（前処理）の効率化として10マイクロメートル以下の均一的粉体化」を目指しています。この技術を確立することで、国内外のバイオマス資源を製品転換する汎用的な技術として社会に普及させ、循環資源に支えられた低炭素社会を実現させることを目指しています。

● 講演

「銘建工業のバイオマス事業への取組み」 銘建工業(株)

銘建工業(株)の中島社長から、同社のバイオマス事業への取組みについてお話がありました。同社は集成材柱などの住宅用構造材で全国トップシェアをもつ企業です。同社は1970年頃から日に130トン発生する鉋屑を燃焼させ、熱源さらには発電まで行い自社のエネルギー源として回収されてきたとのこと。1984年にエネルギーセンターを設置され、更に積極的にエコ発電技術のブラッシュアップに精進され2003年の法律改正に合わせて遂に余剰電力の販売を行うレベルに至ったとのこと。2004年からはバイオマス原料としての「木質ペレット（バインダーレス）」の製造販売に着手され、現在の年間販売量は13,000トンで国内総販売量の40%に上っています。同社の販売する木質ペレットは灯油とトントンの経済性があるとのこと。中島社長からは御講演前段において日本における林業の疲弊を憂う様々なデータの提示、世界における木材用途の多様化などについてお話がありました。あらゆる意味で国の効果的な林業復活に向けた施策が日本の未来に向けて必須であるとの事を随所で強調され、われわれも多くの感銘や刺激を受けることが出来ました。



■ 平成21年11月度ORIC交流会及びセミナー

●入居企業紹介

「バイオ人工臓器開発に係わるわが社の取組み」

バイオシステムメディカルテクノロジー（株）

取締役の難波氏より、会社創立の経緯、その基幹技術、今後目指したい方向などについてご説明がありました。そもそものスタートは産学連携（岡山大、岡山理科大、クラレメディカルなど）によるものであります。その後クラレが有している中空糸の技術を活かし三次元的な細胞培養器を開発してきました。このことにより、現在単発で行われている細胞培養を大量培養化しようというものです。第一段階の開発は終了し現在上海で本格的な生産に着手したとのこと。中空糸細胞培養器開発における各種ノウハウを生かして、さらに人工臓器製造に向けた開発に着手しました。最近では皮膚・角膜・心筋をiPS細胞で再生できる可能性が出てきましたが、このような情報をもとに同社としても人工臓器製造に遅滞無く貢献していきたいとのことでありました。大いに期待したいところであります。



●ゲスト機関紹介

「半導体ネットおかやまの取組み」 半導体ネットおかやま



代表で岡山理科大学教授の財部先生より、同機関のこれまでの取り組みと今後期待したいことなどについてお話がありました。同機関は平成17年12月に設立され、岡山大、岡山理科大、岡山県立大、中国職業能力開発大学校、津山高専、工業技術センター、民間企業などが会員となって活動しています。各大学が幹事大学として持ち回り例会を実施、学生対象の企業説明会の実施、半導体分野での人材育成教育、共同研究プロジェクト立ち上げ等が主な活動とのことでした。先生は盛んに、自分たちの活動の出口がORIC入居企業の姿、と言っておられました。

正にその通りであり、例会を中心とした人脈形成から今後多くの共同プロジェクトが充足することを期待したいと思います。そして必要に応じて、そのプロジェクトの受け皿としてORICがお役に立てるよう、適切に情報交換を行なっていく所存です。

●ORICセミナー

「最近の金融経済動向について」 日本銀行岡山支店

昨年11月のセミナーに引き続き、本年11月も、日本銀行の高橋経一岡山支店長に、日銀展望レポート（10月末発表）を基にした今後の経済状況の見通しについて、解説していただきました。高橋支店長は、まず、この1年間に何が起こっていたのかを総括してお話し下さいました。2002年頃からBRICsによる成長が世界経済を牽引していた。先進諸国では、その成長に乗る金融緩和状態が継続し、例えば米国の住宅ローンの拡大など、バブルの状態が発生した。金融の拡大が限界を超え、米国リーマン・ブラザーズの破綻をきっかけに、急速に世界経済が収縮した。これは、先進諸国の金融機関が新興国からの資金回収に走り、金づまり状態が発生し、そのため新興国向けの輸出も激減していくといった経緯を辿った。



日本の企業は、輸出が停止したので在庫が急拡大し、これを抑制するために、大幅な生産調整を行い、ピーク時の3～4割の生産となった。これに伴い、人件費の大幅縮小が図られ、①派遣労働者の解雇、②サービス業での非正規雇用者の圧縮、③正社員の給与減、休日減などが、相次いで発生した。この状況は、国内の需要の減退をさらに推し進めた。

現状は、①在庫調整の進行、②各種景気刺激策の成果、③企業や家計のマインドの回復等により、やや景気の上向きが見られる状況とのこと。しかし、これらの要因は、持続性が小さいため、今後の継続した成長のためには、政策的な後押しが必要である。

日銀展望レポートの中心となる見通しとしては、新興国を中心とした海外経済の改善と、各国の経済対策の効果から、景気は持ち直してきているものの、2010年半ば頃までは、そのペースは緩やかなものである。その後は輸出による企業部門の好転が家計に反映し、成長率も高まる見通しとのこと。

物価は、昨年の資源高の反動が薄れるため、下落幅は縮小していく。ただ、これまでの経験などからみると、金融システムの安定や中長期的な予想物価上昇率の安定から、デフレスパイラルの発生可能性は小さいと見ているとのことでした。

■ 平成21年12月度ORIC交流会及びセミナー

●入居企業紹介

「ナノバブル水の免疫賦活作用」－ ナチュラルキラー（NK）細胞活性に対する効果－ 免疫分析研究センター（株）

免疫分析研究センター(株)の立藤取締役より、同社が開発中の「ナノバブル水による免疫賦活作用」についてご説明いただきました。直径が1マイクロメートル（1mmの千分の1）未満の微細な気泡を含む水を「ナノバブル水」と言いますが、このような水は、疾病の回復、細菌やウイルス等による感染症の予防、皮膚病の回復などの生理活性作用をもつことで注目されています。同社は、このような効果が生じるのは、ナノバブル水が、生体がかもともと持っている免疫作用を活性化させるのではないかと考えて検討を行いました。ナチュラルキラー細胞と呼ばれる、細菌感染時の生体防御反応に重要な役割を果たす細胞は、ナノバブル水を加えた環境で培養した場合では、それが無いときに比べて、活性が1.2～1.3倍に増加していました。また、ナノバブル水の量を増やすと、活性も増加することが分かりました。ガンの免疫細胞療法などへの今後の応用研究が期待されます。



●ゲスト機関紹介

「岡山理科大学の産学官連携の取組み、新しい研究の紹介」 岡山理科大学 学外連携推進室



岡山理科大学学外連携推進室の新倉教授により、標題のテーマで同大の産学官連携と研究の最近の成果についてご説明いただきました。共同研究などの民間企業との連携は、この5年間で着実に増加しています。また、文部科学省のプロジェクトにも、毎年のように採択されています。2008年度からの「おかやま医療機器開発プロフェッショナル」プロジェクトでは、医療機器産業の中核的人材を育成する取組で、無料で、少人数制の講義、実習を行い、半年間で専門的な技術者養成を行います。また、2009年度からの「グリーン元素科学」プロジェクトでは、環境問題と希少元素資源の枯渇を考え、地球上にありふれた元素を用いて、新規な機能を持つ材料を開発することが目標となっています。この他にも、様々な取組が行われており、今後も有用な成果が期待できそうです。

●ORICセミナー

「ライフケア技研 セルフメディケーションを目指すベンチャー」 ライフケア技研（株）

講師の横井氏は54歳で製薬会社を退職しライフケア技研(株)を創業したベンチャー起業家です。横井氏は社業を通じてQOL（生活の品質）の向上のためセルフメディケーションを提案しています。セルフメディケーションとは「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること（WHO）」ですが、それに関連して平均寿命などに影響する因子などの各種データの説明があり、参加者の興味を集めました。横井氏からセルフメディケーションのための5つの趣味を持つことや同社が販売する機能性パッチの利用でセルフメディケーションとQOLの向上を図ってもらいたいと提案がありました。同社の機能性パッチは皮膚に貼付して肌質や体質を簡便にいつでも何処でも測定でき、セルフメディケーションに適する販促用の雑貨として販売されています。横井氏から同社の機能性パッチの特色と利用方法の説明とともに参加者全員に商品の提供があり、熱心な質問が多く寄せられました。



■ 第21回IT研究会 「クラウドコンピューティングのインパクト」

平成21年12月2日（水）に、サン・マイクロシステムズ(株)の寺澤慎祐氏、NECフィールディング(株)の篠原英明氏、(株)アーツ情報システムの山内雄司氏の3名にご講演いただきました。

サン・マイクロシステムズ(株)の寺澤慎祐氏は「クラウドコンピューティングのインパクト」と題し、クラウドの基本概要や技術、事例、問題点についてグローバルな視点から海外の最新情報を分かり易く説明いただきました。

NECフィールディング(株)の篠原英明氏は「ITインフラは‘買う’から‘借りる’時代へ」と題し、国内の中小企業の利用例、市場動向、さらに自社でサービスしている‘コールセンターASPサービス’、‘セキュリティ管理&IT資産管理サービス’等詳細に説明いただきました。

(株)アーツ情報システムの山内雄司氏は現在‘IDプロバイダ’に取り組んでいます。コンソーシアムを設立し、複数のクラウドサービスのIDを統合するサービスなどの実証実験を産官学で行う企画について説明いただきました。

今回は大勢の参加があり‘クラウド’の関心の高さを再認識させられました。



入居企業の活動・トピックス

■ 「ORIC バーベキュー交流会」

平成21年10月23日（金）の10月の交流会・セミナーの終了後、ORICの中庭でバーベキューパーティーが開催されました。天候に恵まれたこともあり、100人を超える参加者は用意された9台のコンロを囲み、交流の輪が広がりました。B級グルメで全国に知られるようになった「津山ホルモンうどん」とORICスタッフルームのメンバーが菜園で育てたさつまいもが焼き芋として提供されるなど話題も豊富なパーティーとなりました。

■ 「おかやま IT 経営力大賞」

平成21年11月26日（木）に岡山コンベンションセンターで平成21年度「おかやまIT経営力大賞」記念フォーラムと表彰式が行われました。記念フォーラムでは昨年度のIT経営力大賞で経済産業大臣賞を受賞した、東海バネ工業(株)の渡辺社長よりITを活用した多品種微量生産（平均受注ロット5個、同金額5万円）と“非常識発想”による同社の経営手法の講演があり参加者の関心を集めていました。

続いての「おかやまIT経営力大賞」の表彰式では卒業企業の岡山流通(株)が優秀賞、(株)アイ・エス・ティがチャレンジ優秀賞を受賞しました。岡山流通(株)の川上社長は謝辞の中で「来年は大賞を取りに行く」と力強く宣言していました。

「おかやまIT経営力大賞」は経済産業省が主催する「中小企業IT経営力大賞」の県内版として岡山県が独自に開催しているものです。「IT経営」とは、経営戦略・経営革新の実現のために、ITを高度に活用する経営スタイルを指します。今回の応募企業は経済産業省が主催する「中小企業IT経営力大賞」でも審査対象となっていますので、こちらでの入賞の可能性も残されています。活躍を期待したいと思います。

■ 「ITソリューションフェア in ママカリ '09」

平成21年11月27日（金）に岡山コンベンションセンターで「ITソリューションフェア in ママカリ '09」が開催され、ORICとして初めて展示コーナーを出しました。同コーナーを利用して(株)アーツ情報システムと(株)VOIPACK JAPANが自社商品の展示を行い来場者にアピールしました。

ORICでは今後も同様のアピールの機会を入居企業に割安に提供する方針です。

株式会社日本ステントテクノロジー

代表者 代表取締役 山下 修蔵
 連絡先 〒701-1221 岡山市北区芳賀5303 ORIC 115号室
 TEL 086-286-9510 FAX 086-286-9511
 URL <http://www.jstentech.com/>
 E-mail info@jstentech.com



産学官連携による国際競争力のある医療機器の創生と 社会貢献を目指してまいります。

日本ステントテクノロジーは大学発ベンチャー企業として2003年9月に起業以来、産官学連携を基にして国際競争力のある高性能ステントの事業化に取り組んで参りました。

ステントは急性心筋梗塞などの原因となる、心臓の狭くなった冠動脈（血管）を物理的に拡張して血流を改善・治療するために用いられる金属製の筒状医療機器です。

現在国内で治療用として用いられるステントは外国製がほとんどを占めている状況にあり、国内初の純国産薬剤溶出ステントを初めとして、ここ岡山の地から世界に向けて発進して行こうとのチャレンジ魂を起業時からの原動力として、起業7年目の2010年1月には欧州でベアメタルステント（ブランド名“MOMO”）の販売を開始するまでに成長しました。現在欧州で実施中の臨床試験でも、現地のドクターから“Excellent!”との評価を受けつつあります。

当社のステントは理論設計に基づき、高度な微細加工と表面処理を施したもので、他社をしのぐ性能を有する製品を開発できたと自負しております。また安全性に優れた薬剤をステントに応用した当社独自の薬剤溶出ステントの開発も順調に進んでおり、近々ご紹介できると考えております。

今後も現在の開発体制を維持し、次世代医療機器の基盤技術を確立し、人々の健康と生命を支える製品を世に送り出すことで社会貢献を果たして行きたいと考えております。

《会社沿革》

- 2003年 9月 有限会社日本ステントテクノロジーを設立
- 2003年 11月 ビジネスプランコンテスト 優秀賞 受賞
- 2004年 4月 株式会社に組織変更、現在に至る
- 2007年 6月 日本新事業支援機関協議会 ビジネスインキュベーション 大賞 受賞
- 2008年 5月 ISO13485 認証取得
- 2008年 11月 CEマーク取得
- 2009年 1月 CCT2009 ‘Poster Session’ Award for Excellence 受賞
- 2009年 11月 Frost & Sullivan, Best Practices Awards 受賞
- 2009年 12月 ドイツ ポツダムに欧州法人設立
- 2010年 1月 欧州にてベアメタルステント “MOMO” の販売開始予定
※MOMO Coronary Stent System は、日本国内では未承認／未販売です。

■ 第14回 リサーチパーク研究展示発表会

岡山県内の大学および岡山リサーチパークに関係する企業・研究機関の研究成果を発表する場を提供し、その成果を県内に広めるための交流の場を設け、県内産業の振興に寄与する目的のために、本年も「第14回 岡山リサーチパーク研究展示発表会」が開催されます。

当日は、展示発表セッションの他に、特別講演会、交流会も開催されます。

ビジネスチャンスを掴む場として、是非ご活用下さい。

【開催日時】 平成22年2月5日（金） 10時～18時30分

【会場】 テクノサポート岡山（岡山市北区芳賀5301）

【ORICからの展示発表セッション参加企業】

有限会社クラフト、株式会社クレオフーガ、株式会社スイフトスタッフ、株式会社日本ステントテクノロジー、株式会社パティエーラボ、免疫分析研究センター株式会社、水野テック（岡山大学として参加）

新入居者紹介

2009年10月に第26回入居審査会が開催され、下記1者の入居が決定しました。

入居内定企業名	事業概要	所在地	分野
水野テック	・「幹細胞研究を飛躍的に促進するための研究材料」の開発・製造を行う。	岡山市	ものづくり

入居者募集中!!

センターでは随時入居のご相談に応じています。お気軽にお問合せください。

■ 施設使用料・空き室状況

(2010年1月現在)

施設区分	面積	使用料の月額 (半額適用時※)	部屋数	空き室数
研究室小	約 25㎡	45,000円 (22,000円)	22	11
研究室大	約 50㎡	88,000円 (44,000円)	30	7
試作開発室	約 100㎡	175,000円 (87,500円)	6	3
創業準備室	5㎡/ブース	5,000円	6ブース	4ブース



研究室大



研究室小

※創業5年未満の会社は、入居後3年間は半額になる制度があります。

■ 次回募集

原則として3ヶ月ごとに入居審査会を開催しています。

次回は2月末までに事業計画書を提出された方を対象に、3月中に開催の予定です。(創業準備室の募集は随時受付けています。)

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.oric.ne.jp>